

■ タイムテーブル・発表内容

	【Ⅰ教育・観光・交流人口の拡大】	【Ⅱ地域資源を活用した地域産業の活性化】	【Ⅲ地域コミュニティの活性化、移住・定住の促進】
<p>1人目 13:00～13:20 発表 10分 質疑応答5分、 会場移動など5分</p>	<p>風見緑哉（盛岡市） 地域おこし協力隊（OG） 岩手のもうひとつの理想郷をVR上に創り出すことを目指し、いわてVRワールド「VHATOV（ヴィーハトーフ）」と、本ワールドを活用したイベントの紹介</p> 	<p>工藤秀佳、菅原孝太（大槌町） 地域おこし協力隊 大槌町ではジビエをまちの産業として持続的に活用していく取り組みを進めてきました。このプロジェクトにおける活動内容を発表します。</p> 	<p>渡辺達也（一戸町） 地域おこし協力隊 町で地域おこし協力隊を知ってもらうために創刊した、一戸町地域おこし協力隊「瓦版」。それによって知った、町で活動し続けるために必要な地盤づくりの大切さについて</p> 
<p>2人目 13:20～13:40</p>	<p>那須浩修（一関市） 地域おこし協力隊 一関市の観光地域づくりの活動報告。3年間の観光地域づくり活動を通して、「観光地域づくりの提言」について</p> 	<p>袴田優樹（盛岡市） 地域おこし協力隊（OB） 協力隊員として取り組んできた内容や盛岡アグリローンサービス起業についての起業理由と2021年度の活動内容、今後の展望について</p> 	<p>小林彩（岩手町） 地域おこし協力隊（OG） 岩手町移住コーディネーターの活動内容『移住後に必要なコミュニティ作り』や『岩手町での暮らしを可視化する情報発信』『受け入れ態勢の整備』について</p> 
<p>3人目 13:40～14:00</p>	<p>松下竜之介（宮古市） 地域おこし協力隊（OB） みちのく潮風トレイル1000kmを全線歩いた体験を元に、ツアーガイド、情報発信、地域の魅力掘り起こしなどその活用方法をお伝えします。</p> 	<p>山口光司（野田村） 地域おこし協力隊（OB） 野田村の協力隊、山葡萄生産支援員の活動や任期後、就農してからの生活、加工品の製造と販売及び今後の展望等を発表します。</p> 	<p>伊藤将太（大槌町） 地域おこし協力隊 「移住定住事務局」の新規立ち上げや活動内容、「移住」だけではなく「定住」の支援も行いう理由、移住施策における関係人口の可能性や今後の展望について</p> 
<p>4人目 14:00～14:20</p>	<p>吉田力（八幡平市） 地域おこし協力隊 協力隊活動の紹介や子供向けプログラミング教室の事業紹介。2022年4月オープン予定のフリースクールProud!の展望。八幡平マインクラフト部の活動</p> 	<p>山崎裕也（一関市） 地域おこし協力隊 一関市での西洋野菜の産地化に向けた取り組み、市内飲食店で西洋野菜を使ったイベントの実施や地産地消の仕組みづくりにデジタルを活用した挑戦について紹介します。</p> 	<p>只松靖浩（遠野市） 地域おこし協力隊 「顔見知りを増やすプロジェクト事例」として、今まで取り組んだイベントの背景や狙い、自身のこれまでの経験を地域おこし協力隊として活かした点等を紹介します。</p> 
<p>5人目 14:20～14:40</p>	<p>山谷淳也（葛巻町） 葛巻高校魅力化コーディネーター 高校魅力化事業とは？その目的は？高校と町、町と高校生、町民と高校生のつなぎ役としての活動。将来の関係人口、移住定住、Uターンへのきっかけ作りとしての役割</p> 	<p>今野陽介（花巻市） 地域おこし協力隊 陶磁器や和紙、染物などの花巻の伝統工芸を生かした商品開発や工芸を活用したプロジェクトを実行する。花巻の窯元で修行し、自身も作家として作品を制作。花巻の企業とコラボした工芸酒器セットについてもご紹介しします。</p> 	<p>二宮雄岳（釜石市） 復興支援員（OB） 「復興からの学びを地方創生へ実装する取り組み」釜石市では新たな地域コミュニティの活性化に接続する取り組みを開始しました。新たな地域の担い手と地域の協働を接続するチャレンジをご紹介します。</p> 

※各会場への出入りは自由です。